

令和元年度第1回平塚市文化振興懇話会会議録

【日 時】令和元年 11 月 25 日（月）10:00～11:40

【会 場】平塚市庁舎本館 3階 303会議室

【出席者】 構成員 7 名（敬称略）：沖野成紀、鈴木建人、平野恵美子、吉成美香子、
岩崎由紀子、加藤宏、高梨里志
市職員 4 名（事務局）：岩崎市民部長、小菅文化・交流課長、
柴崎文化振興担当長、昇主査
傍聴人：1 名

会議次第

1 開会

2 市民部長あいさつ

3 参加者紹介

4 座長・副座長の選任

座長（沖野氏）副座長（平野氏）が選任された。

傍聴人の確認

傍聴希望者 1 名について事務局から座長へ報告した。

平塚市文化振興懇話会傍聴要領に基づき座長が傍聴を認め、傍聴希望者が入室した。

5 議題

（1）平塚市の文化行政について

事務局説明要旨

- ・資料（1）に基づき説明
- ・平塚市では市民部文化・交流課と教育委員会の社会教育部で役割分担をして文化行政に取り組んでいる。
- ・文化・交流課では、（公財）平塚市まちづくり財団と連携して囲碁文化の振興、文化芸術公演や市民参加の実行委員会型事業、ワークショップ事業等の開催を実施している。また、文化情報誌の発行、平塚市文化振興基金の管理・活用を行っている。

文化情報誌たわわ

- ・平塚市にゆかりのある人・活動を、文化の観点から取り上げ、市民に紹介している。また、工芸や文化財をはじめ、音楽、美術、アート、ダンスの他、ホストタウンであるリトアニア共和国や姉妹都市であるローレンス市の紹介も取り上げている。

平塚市文化振興基金

- ・市民文化の振興を図るために必要な長期的・安定的財源を確保するため、平成 6 年 3

月に創設し、これまで419件、約6800万円の寄付をいただいている。

- ・この基金を活用し、今年度も10月から1月にかけて市内7小学校にバイオリン、ピアノ連弾、ピアノ、金管五重奏のプロアーティストを派遣し、子どもたちに身近なところで音楽に触れる機会の提供を予定している。

囲碁文化の振興

- ・平塚市にはかつて木谷實九段が開設した木谷道場があったことから、囲碁を本市の特色ある文化と位置づけ、年間を通して囲碁大会、囲碁教室等を開催し、囲碁文化の振興を図っている。
- ・平塚市最大の囲碁イベントとして「湘南ひらつか囲碁まつり1000面打ち大会」を毎年開催している。

平塚文化芸術ホールの整備

- ・令和4年3月の供用開始に向けて、現在整備を進めている。施設の概要等詳細については次の議題で報告する。

質問・意見等

構成員：平塚市文化振興基金についてこれまでの累計で419件、約6800万円を寄付されたとあるが、その後使用していると思うので現在の基金の残高がどのくらいあるか教えていただきたい。

事務局：平成23年度から年間300万円を活用している。毎年精算し残額の戻入はあるが、約1600～1700万円を活用しているので残高は約5100万円となっている。

構成員：基金の活用は毎年300万円と決まっているのか。

事務局：来年度まではこれまで同様300万円としていく予定。ホール建設中のため今後の活用内容は検討していきたい。

構成員：是非ホールに活用いただきたい。

座長：具体的にはどのようなものに活用いただきたいかの意見はあるか。

構成員：まだ情報をいただいていないのでどのようなホールになるか分からないが、せっかくホールを建設するのであれば、ある程度の予算を増やして音響設備やピアノ等設備の充実を図り、使いやすいホールにしていきたい。

構成員：ホールについて実施設計の段階ということは、ほぼ内容は決定しているということでしょうか、多少は変更できるのか。

事務局：実施設計の詰めの作業をしているため概要の変更は出来ないが、使い勝手の面でのご意見はお聞かせいただきたい。

座長：これまで出た意見をまとめる。

平塚市文化振興基金残高を確認

平塚市文化振興基金の活用によるホールの設備の充実

(2) 平塚文化芸術ホールの整備について

事務局説明要旨

- ・資料(2)に基づき説明。

全体施設配置計画

- ・図面上側：A1ブロック(旧見附台公園、旧見附台広場のエリア)は、東半分は平塚文化芸術ホール、西半分は見附台公園の整備を進めている。L字型だった見附台公園の整形化も整備事業の目的の一つである。
- ・図面中央：A2ブロック(旧市民センター、旧崇善公民館のエリア)は、日常的に集客が見込め、賑わい創出が期待できる飲食店舗と、駐車場・駐輪場の整備を事業者が進めている。
- ・図面下側：Cブロック(旧錦町駐車場のエリア)には、2階建ての生活関連店舗の整備を事業者が進めている。

ホール外観(南面)

- ・1階中央にはメインエントランスを設置。
- ・メインエントランスの隣には2階エントランスに続く外階段を設置。
- ・ホール手前があるA2ブロックの飲食店舗を平屋にするとともに配置を工夫することで、旧東海道からもホールが見渡せる設計。

ホール外観(西面)

- ・パース左側にある大きな箱は大ホールの上部で、一番背の高いフライタワーを南北に配置することで、北側住宅への圧迫感を軽減する設計。
- ・パース右側にある小さな箱は多目的ホールで、公園側の壁を開放することで公園と一体利用が可能。
- ・西側1、2階の大きく庇をとった外観は西日の対策としても有効で、一年を通してホール内で快適に過ごせるような設計。

1階平面図

【事務・受付】

エントランスを入って右手に受付を配置。

【エントランスホール】

吹き抜けになっていて、エントランスホールを利用したコンサートや、様々な活用を想定。

【多目的ホール】

- ・平土間式 約200席。市民が日常的に発表の場として使うことを考え、ステージ・客席を演目に合わせて自由にレイアウトが可能。
- ・東西の壁は開放ができ、エントランスホールから公園まで一体的に利用が可能。

【大ホール】

- ・3層構成で1階席 約650席、2階席 約330席、3階席 約220席の合計約1200席。
- ・市民活動の発表から学校利用や大型鑑賞事業まで様々な事業に柔軟に対応が可能。
- ・3層構造とすることで舞台に近い席を多く配置。
- ・音響や座席等は提案時より機能強化を検討中。

【楽屋ゾーン】

- ・大楽屋 1 室、中楽屋 1 室、小楽屋 3 室の合計 5 室の楽屋を配置。
- ・ホールの事業規模に合わせて廊下の可動扉を閉めることで、大練習室、大会議室も楽屋ゾーンに取り込むことが可能。

【大練習室】

壁の一部がガラス張りで、カーテンを開けることでオープンな活動が可能。

【キッズルーム】

- ・通常時は親子の休憩・遊ぶスペースとして利用。
- ・大ホール公演時には主催者が保育士を配置することで、子どもの一時預りが可能。

2 階平面図

【オープンスペース】

誰でも気軽に集える憩いの場の設置。

【文化芸術支援室】

- ・流し台を設置し、様々な文化芸術活動に使用が可能。
- ・市民センターにはなかった機能。

【小練習室】

- ・少人数での音楽活動等幅広く使用ができる部屋を 2 室配置。
- ・市民センターにはなかった機能。

【囲碁展示スペース】

- ・囲碁のまちひらつかとして、囲碁文化の普及のための展示スペースを確保するとともに、周辺オープンスペースを活用した囲碁教室等の開催が可能。

3 階平面図

【外部】

見附台公園を見渡せるような設計。

大ホール内観イメージ

市民センターのワンスロープに比べ、3 層構成にすることで舞台と客席を近くに配置。

多目的ホールイメージ

公園、エントランスホール側の壁を開放して、一体利用しているイメージ。

イベント時のイメージ

湘南ひらつか七夕まつり等、平塚文化芸術ホール、見附台公園、民間収益施設と連携し一体利用したイベント開催のイメージ。

全体

本日配布の資料は設計段階のものであり、今後の検討の中で変更されることもあるのでご了承いただきたい。

質問・意見等

構成員：駐車場が必要だと思われるが、何台くらい準備されているのか。駐車場のないことに対する不安の声を多く聞く。

事務局：元々市民センターに専用の駐車場はなく、見附台駐車場、錦町駐車場と連携して

いた。今回の整備事業の中で近接する駐車場の台数は減ってしまうが、民間収益施設に整備される駐車場、近隣の民間駐車場との連携を検討している。

構成員：駐車場が一番大事な問題だと思う。駐車場がないとホールが使用しにくくなるという意見がある。中央公民館でも駐車場が問題になっている。近隣駐車場との連携について、ホール利用開始までに検討いただきたい。

事務局：今回の整備事業は平塚駅西口からの回遊性と賑わい創出を目的の一つにしているため、来館者には公共交通機関を利用していただき、まちを歩いていただきたい。一方で駐車場の問題については、ご意見を参考に民間駐車場との連携を模索していきたいと考えている。

座長：Cブロックに屋上駐車場や立体駐車場ができると聞いていたが、現時点での計画はどのようになっているか。

事務局：現時点で確定ではないが、スーパーマーケットが整備され屋上駐車場が予定されている。

構成員：回遊性や賑わい創出について、七夕まつりの目的地として公園で様々なイベントを開催している場合はイメージしやすいが、平時はどのように活用されるのかがイメージしにくい。ホール内で平時に開放されるスペースはどの部分か。

事務局：これまでの市民センターではホールの催しがある時にしか人の流れがなかった。今回整備する平塚文化芸術ホールでは、1階エントランスホールや2階オープンスペースは開館から閉館まで利用可能であり、日中は親子連れの方が公園利用のついでに立ち寄り、夕方は学校帰りの学生がオープンスペースで勉強する等、様々な方に利用いただきたい。また、多目的ホールやエントランスホールで色々なイベントを定期的に行うことにより、普段ホールにお越しにならない方も楽しんでいただける環境を整え、賑わいを創出したい。

構成員：見附台公園について、このエリアは商店街からも遠く、総合公園と比べると遊具等の魅力が劣るため、目的地としてこの公園に対して特別な価値を見出しにくい。この場所に特別な価値を付加できないか考えていく必要がある。例えばホールで言うと、2階にある囲碁展示スペースを1階のエントランス付近に移す等、平時から市民が見に行こうと目的意識を持てるような活用を、建物ができる前から考えておいた方がいいのではないか。

事務局：囲碁の展示スペースについては2階にあることをしっかりPRしていきたい。また、平時にホールに来やすい環境としては、現在市役所で実施しているミニコンサートをホールで行う等、様々な方に親しんでもらえる取組を考えていきたい。

構成員：目的なく2階までわざわざ上がる人は少ないので、興味がない人でも見てもらえるように1階にした方がいいのではないか。

座長：これから囲碁展示スペースを1階に移すことは可能か？

事務局：事業者から2階に囲碁展示スペースや平塚の情報発信スペースを設置する提案があった。このような情報発信について1階のスペースをどのように活用できるかは、ご意見を踏まえ引き続き検討していく。

構成員：いつ頃平面詳細図面についての情報がいただけるのか。平塚市文化連盟は22団体で組織され、芸能部門が13団体ある。備品や出入口等細かいところに意見が出ると思われる。早めに提供いただきたい。

事務局：現在実施設計中であり、1月に実施設計をまとめ、建設に入る予定。遠くない時期に情報提供できると考えている。

構成員：多目的ホールにピアノは常設されるのか。

事務局：多目的ホールは、音楽利用だけでなく演劇やダンス等多目的に活用するため、ピアノは常設しないが、すぐそばにピアノ庫を配置している。

構成員：ホール全体でピアノは何台あるのか。

事務局：市民センターで利用していたピアノを保管しているが、スタインウェイが1台とヤマハが2台の合計3台ある。

構成員：ホール完成時に新しいピアノを購入する予定はあるのか。

事務局：購入する予定はない。

構成員：大会議室はコンサート等に利用できるか。

事務局：コンサート時の楽屋機能としては利用できるが、楽器の利用は想定していない。音を出す観点で整備される部屋は多目的ホール、大練習室、小練習室がある。

構成員：多目的ホールは200席ということで、演劇やピアノの発表会や小さなコンサート等を開催できるか。また、椅子は可動式か。

事務局：開催できる。固定式の椅子では用途が限られるため可動式の椅子になっている。

構成員：小練習室は何人収容の想定か。

事務局：4～5人の想定。

構成員：40～50人規模のコーラス練習が定期的にできる部屋が求められているが市内にほとんどない。八幡山の洋館があるが、利用が殺到していてほとんど予約が取れない。少人数の活動の場は色々あるのであまりいらぬのではないかと。小練習室2室を繋げ、広めの1室に変更できないのか。

事務局：間取りの変更に係ることはできない。多目的ホールは発表の場だけではなく練習の場としても活用いただきたい。また、市民センター時には3区分だった一日の利用区分を4区分に増やし、様々な人が活動できる機会を増やしていく。

構成員：練習室には防音機能は備えているのか。

事務局：備えている。

座長：設備等の詳細に関する報告は今後あるのか。

事務局：実施設計完了後に報告したいと考えているが、設備に関しては整備事業の要求水準書に記載してあるのでこちらもご確認いただきたい。

構成員：学校行事でホールを利用する場合には生徒はバスで来館するが、バスの寄り付きはあるのか。これまでは市民センターの西側道路で乗降していた。

事務局：大ホールを借りる場合は、ホール北側にある主催者用駐車場を使うことができる。

構成員：2階の和室には炉が切っているのか。

事務局：炉は切っていない。

構成員：この規模のホールであれば本来茶室が欲しいが、和室でも炉が切ってあれば略式の茶道ができるので、炉を切ってほしい。茶道も文化の一つ。

座長：それぞれのご意見・ご要望があるが事務局に持ち帰り検討いただきたい。

座長：これまで出た意見、要望をまとめる。

駐車場について、来場者用の駐車場が足りないとの意見が出た。また、学校行事における利用時のバスの乗降場所については、主催者用駐車場の利用を確認した。

回遊性を考えるのであれば平時から魅力ある展示等工夫が必要と意見が出た。一例として囲碁展示スペースを2階から1階に変更できないか。

小練習室の統合の要望が出たが、現時点では難しく、運用面で改善したいとの回答があった。

施設設備についての変更は難しいが、施設の利用方法については今後の懇話会でも意見を出していくことを確認した。

和室に炉を切ってほしいとの要望が出た。

(3) 平塚市文化芸術振興計画案について

事務局説明要旨

- ・資料(3)-1、(3)-2、(3)-3に基づき説明。

計画策定の経緯

- ・平塚市文化振興指針は平成22年に策定し、平成28年度に改定時期を迎えていたが、平成29年2月に「見附台周辺地区土地利用計画 改定整備方針」が策定され平塚文化芸術ホールの整備が決定したため、平成30年度まで指針の期限を延長することとした。
- ・これを受け、平成29年に文化芸術基本法等の国、県の動向を反映させた上で、平成30年度末に指針を改定することを目指し改定案の検討を進めてきたが、改定にあたっては計画を整備すべき、平塚文化芸術ホールの整備内容を反映させるべきとの考えから、平成30年度には指針の改定を行わず、平塚文化芸術ホールの開館に合わせ平塚市文化芸術振興計画を策定することとした。
- ・令和元年度は、昨年度までの懇話会で頂いたご意見及び庁内での検討を踏まえ、平塚文化芸術振興計画の基本目標骨子案、基本目標素案を検討する。

今後の計画策定スケジュール

- ・令和元年度については、基本目標案の作成、令和2年度に実施を予定している市民アンケート案の作成を行う。
- ・令和2年度については、令和元年度に作成した案に基づく市民アンケートの実施、平塚市文化芸術振興計画案の作成を行う。

- ・令和3年度については、令和2年度までに皆様からいただいた様々なご意見を踏まえ
た中で、平塚市文化芸術振興計画案に対するパブリックコメントを実施し、令和3年
度中に平塚市文化芸術振興計画の策定を目指したいと考えている。

基本目標の骨子案の説明

【基本理念】

平塚市文化振興指針の基本理念を活かし、「人が輝くひらつか文化の創造 ~ふるさと
平塚を舞台に、ふれあい、伝えあい、結びあい、市民文化の創造・発信をします」と
し、引き続き掲げていきたい。

【基本目標】

「ひらつか文化のまちづくり」、「ひらつか文化の人づくり」、「ひらつか文化の場づく
り」の3つを掲げ、それらを構成するキーワードとして「魅力」、「共生」、「継承」、「交
流」、「育成」、「活用」、「維持・保全」の7つを設定した。

【基本目標：ひらつか文化のまちづくり】「魅力」「共生」

「魅力」：市の魅力を発信することで市内外の多くの人々に知ってもらい、文化芸術を通
じて特色を生かした事業を実施することでより市の魅力が上がり、まちづくりに
繋がると考えている。

「共生」：文化芸術を通して年齢、障がいの有無、国籍に係わらず誰もが住みよく活動し
やすい街となるよう、多文化共生社会の実現を目標として掲げている。

【基本目標：ひらつか文化の人づくり】「継承」「交流」「育成」

「継承」：平塚市で生まれ育んできた伝統文化や文化財等について今後も皆で理解し、育
て、引き継いでいくことが重要であると考え、伝統文化や文化財等に触れ合う
機会を提供し市民の関心を高めていく。また、継承には保存・活用が重要であ
ると同時にそのための担い手が必要であることから、担い手の育成を支援して
いく。

「交流」：人と人との交流の中で文化が生まれるとの考えから、地域の交流を促進する。
また、友好都市、姉妹都市等多様な価値観を持つ人々や様々な文化と触れ合う
機会を設けていく。

「育成」：ひらつか文化の担い手を育てるために、様々な文化芸術に触れる機会を提供し、
文化芸術に親しむ市民の裾野の拡大を図っていく。また、質の高い文化芸術を
提供し、将来の文化の担い手となる子どもの育成を支援していくとともに、幅
広い世代の方への様々な学ぶ機会・知る機会を提供することで自己表現力や創
造する力の育成を支援していく。更には、本市にはプロのアーティストや活躍
している芸術家等、文化芸術を牽引する方の支援に取り組み、頂点の伸長を図
っていく。

【基本目標：ひらつか文化の人づくり】「活用」「維持・保全」

「活用」：文化芸術活動をするためには活動の場が必要となるため、公共施設を活用し、
様々な世代に活動の場を提供するとともに、活動の場や内容についての情報を
自由に知ることができる情報共有の仕組みを整えていく。また、平塚文化芸術ホ
ールが新たな文化の拠点の一つとなるよう、運営事業者や（公財）平塚市まち

づくり財団と連携して様々な事業を進めていく。

「維持・保全」：市民が安心して長く利用していただけるよう、公共施設の計画的な維持管理に努めていく。

基本目標素案（たたき台）

ひらつか文化のまちづくり

【基本目標の素案：魅力の記載内容】

- ・平塚市の魅力について、自然環境等元から備わっているもの、良好な景観や伝統文化等歴史の中で培われてきたもの、七夕まつりやベルマーレ等市民活動の中で作り上げてきたものを例として挙げている。
- ・平塚市の魅力そのものや受け継がれていく市民の主体的な活動がひらつか文化の特長と捉え、多くの人々にその魅力を知ってもらうために様々な方法で情報共有を行う。

【基本目標の素案：共生の記載内容】

- ・様々な活動をしている人々について伝えていくことで、市民理解が徐々に進んでいく。
- ・多様な文化が共生するまちというのは元気なまちであり、文化芸術が発展していくための大切な要素でもあり、そのような中で新たな文化が生まれると捉え、文化芸術の振興を通じて多文化共生社会を目指していく。

ひらつか文化の人づくり

【基本目標の素案：継承の記載内容】

- ・伝統文化や文化財等を受け継いでいく。
- ・伝統文化や文化財を保存・活用し、市民が親しむ機会を提供していく。
- ・次代の担い手の育成を支援していく。

【基本目標の素案：交流の記載内容】

- ・地域の活動の中で地域に根付いた文化が育まれる。
- ・共通のテーマの活動の中で活動の質が高まり、文化が新たに育まれる。
- ・様々な活動による人々の交流の中で文化が育まれることから、交流を促進していく。
- ・友好都市、姉妹都市等多文化との様々な交流の機会を提供していく。

【基本目標の素案：育成の記載内容】

- ・文化芸術活動に触れる機会を提供し、文化芸術に親しむ市民の裾野の拡大を図る。
- ・特に子どもに対して質の高い文化芸術に触れる機会を提供し、将来の担い手育成を支援していく。
- ・ワークショップや講座等学ぶ機会を充実させ、市民の自己表現力や創造力を伸ばしていく。
- ・本市の文化芸術活動の牽引役となるアーティストや指導者を支援し、文化芸術の頂点の伸長を図る。

ひらつか文化の場づくり

【基本目標の素案：活用の記載内容】

- ・様々な文化芸術活動の場として、平塚文化芸術ホールだけでなく市内の身近な施設を活用していく。
- ・鑑賞者や出演者等様々な人々の文化芸術活動を支える情報提供の仕組みを整える。

- ・平塚文化芸術ホールがひらつか文化の新たな拠点となるよう、運営事業者や（公財）平塚市まちづくり財団と連携していく。

【基本目標の素案：維持・保全の記載内容】

市民が安心して文化芸術活動ができるよう、平塚市の方針に基づき、予防保全による施設の長寿命化に向けた維持管理をする。

質問・意見等

構成員：計画について文化芸術から全庁的なものまで幅が広い。計画策定を進めていく中で懇話会の意見はどのような位置づけか。

事務局：計画作成にあたっては庁内関係課とともに検討は行っている。しかしながら、実際に文化活動をされている方々の意見は大変重要だと考えており、各分野を代表される懇話会からご意見をいただきたい。庁内関係課と懇話会の双方の意見をまとめ、最終的にはパブリックコメントを実施することで、広く市民意見を反映させていきたい。

構成員：（公財）平塚市まちづくり財団と運営事業者の事業の棲み分けについては、市がリーダーシップをとっていただきたい。

構成員：これまで（公財）平塚市まちづくり財団が実施してきたことは意義があったと考えているが、新たに運営事業者が事業の担い手となることで、（公財）平塚市まちづくり財団の活動に制限が出ることに懸念がある。このため、市がしっかりと役割分担をしていただきたい。「人づくり」に関連し、これまで（公財）平塚市まちづくり財団は市民参加の事業を開催してきており、実際にホールの裏方のワークショップ等からその道を選ぶ子も出てきている。また、ワークショップの参加者が公演に来てくれるようになり、平塚市でもホールに興味を持つ人が増えてきている。

構成員：既存文化の継承は大事だが、今の若者は押し付けに対して敏感で、行政の思い通りに受け入れられづらい。例えば、賛否はあるが渋谷のハロウィンのように、楽しいことであれば若者は興味を持ち、参加し、大きなエネルギーになっていく。そのために行政がすべきことは、場の提供と発信が重要。計画のキーワードに「発信」を入れてもいいのではないか。例えば、平塚市には海岸沿いや旧東海道等サイクリングコースとして人気があるが、通過地点でしかない。改善策として、海岸沿い、相模川沿い、金目川沿いをサイクリングの拠点としてお手洗い等整備し、北の方で東西に繋いで平塚市内を一周するコースを作る等、新たな文化の創出として考えていけるといいのではないか。

座長：以上で議事を終了する。

6 事務連絡

7 閉会